

教員氏名：佐藤喜久一郎（保育学科・専攻／准教授）

1. 教育の責任

主要な担当科目は「子どもと言葉」「言葉の指導法」「国語表現法Ⅰ」「国語表現法Ⅱ」である。

「子どもと言葉」および「言葉の指導法」では、保育者・教育者として必要な言語発達を理解、児童文化財の有効な活用法、ならびに幼児期の言葉の育ちを支援するための指導法について講義・演習を行っている。

「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」では、社会人および保育者として求められる日本語運用能力の向上を目指し、文章表現、口頭表現、読解、論理的思考、コミュニケーション能力の育成に取り組んでいる。学生が自ら考え、表現し、他者と対話する力を養うことを重視した授業を実践している。

2. 教育の理念

保育者養成教育においては、子どもの言葉を正しく理解し、その背景にある感情や経験を読み取る力が求められる。そのため、学生には単に正しい日本語を学ぶだけでなく、広い一般常識身に着けたうえで、自らの経験や価値観を省察し、多様な他者との対話を通じて言葉の意味を深く考える姿勢を身につけてほしいと考えている。

現代社会では情報が氾濫し、多様な価値観が共存していることから、言葉を批判的かつ主体的に用いる能力がますます重要になっている。私は教育を通じて、学生が社会の中で自立した思考と豊かな表現力を獲得できるよう支援したいと考えている。

3. 教育の方法

授業では、講義形式に加え、演習、グループワーク、ディスカッション、発表活動など、多様な学習方法を取り入れている。

「子どもと言葉」「言葉の指導法」では、絵本の読み聞かせ実践、児童文化教材の分析などを通じて、理論と実践を結びつける学習を行っている。また、学生自身が子どもの発達段階を考慮した教育実践を自ら企画できるよう指導している。

「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」では、文章作成、プレゼンテーション、ディベート、要約、意見文作成などの課題を段階的に設定し、学生が自らの表現を客観的に振り返る機会を重視している。また文章力検定の受験を想定して、資格取得のための学習をサポートしている。学生の学習状況や理解度を適切に把握し、個々の特性や課題に応じた指導を行うよう努めている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

多くの学生が授業を通じて、自らの言語表現を客観的に見直し、他者との対話を重視する姿勢を身につけている。特に、保育実習において、言葉の伝え合いや声掛けなど授業で、学んだ知識や技術を実践的に活用できたとの報告が寄せられている。授業における主体的な学びや協働的な学習活動を通じて、学生の自己表現能力やコミュニケーション能力の向上に一定の成果を上げていると考えている。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

今後は、学生の主体的な学びをさらに促進するため、アクティブ・ラーニングの手法をより効果的に活用するとともに、ICTを活用した教育方法の改善にも取り組みたいと考えている。現代社会における言語環境の変化や価値観の多様化を踏まえ、情報リテラシー、批判的思考力、多文化理解の視点を取り入れた教育内容の充実を目指す。専門分野である口承文芸研究から得た知見を活かし、学生一人ひとりが豊かな言語感覚と主体的な表現力を身につけられる教育を実践していきたい。

ティーチング・ポートフォリオ

(2026 年 6 月 3 0 日現在)